

## コミュニケーション能力の向上を図る交流型授業づくりの試み

A Study of Improving Communication Skills by Communicating with Chinese Students

洪潔清

### 1 背景と目的

グローバル化が急速に進んでいる21世紀において、外国語教育は高度な語学力を持ち、且つ多様な異文化に対応できる人材を育成することが求められている。そのニーズに応じ、大学における第二外国語教育は、学習者の言語知識を運用する能力だけでなく、その言語の背景にある様々な文化を理解し、自らの意思を異文化の人に伝えられるコミュニケーション能力を育成すること、および学習者のコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を育てる授業づくりが必要であると思われる。しかし、実際の教育現場において、こうしたコミュニケーション能力を向上させる学習環境が備わっているとは言いがたい。多くの大学における第二外国語教育は、1年次（初級）におけるクラスの規模が大きい、学習時間数が少ない、学習者の学習意欲が低下しているなどといった問題に直面しており、これらの問題をいかにして改善していくかが外国語教育における大きな課題となっている。

こうした教育現場のニーズや現状に合わせて、筆者は身近にいる本学の留学生を2年次の中国語中級レベルの授業に招き、ネイティブスピーカーと直接交流することを通じて、実践的コミュニケーション能力の向上を図る授業を試みた。初級クラスではなく、中級クラスを選んだのは、2年次に継続して中国語を履修する学生は、中国語に対する関心も高く、学習目的も明確であり、またクラスの規模も小さいことから、筆者の考える実践的コミュニケーションを養う学習環境を整えやすいと考えたからである。本稿では、留学生との交流活動の実例を分析しながら、こうした交流型授業づくりの意義や効果、及び今後解決すべき課題について検討したい。

### 2 交流型学習の授業設計

#### 2.1 授業設計

科目名：中国語表現5（前期）・6（後期）

受講対象：中国語を一年間以上履修した者、または中国語の基礎文法を一通り学んだ者。

授業概要：この授業では教科書の内容を学びながら、中国語の基礎文型や表現を身につけたり、中国文化への理解を深めたりしていく。また、中国語によるコミュニケーション能力を向上させるため、中国人留学生との交流会を前後期にそれぞれ4回行うことを計画している。中国人を相手に、直接中国語を聞いたり、話した

りすることを通して、異文化をもつ人々との交流を体験し、中国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：

	対象	言語習得	文化理解
レベル1	・1年間履修 ・中国渡航歴なし	簡単な中国語で質疑応答ができる	教科書にある文化事象を観察して理解できる
レベル2	・1～2年間履修 ・短期留学、滞在者	課題について自らの考えも含めて中国語で表現できる	文化事象について、日中間の共通点と相違点に気づき、伝えられる
レベル3	・中国人2世 ・長期留学、滞在者	課題について流暢な中国語で留学生と交流することができる	文化事象について、日中間の共通点と相違点をめぐって、留学生と討論することができる

授業計画・授業内容：

前期

第1週 ガイダンス、第1課 文法解釈、会話文と読解文の学習

第2週 第1課 リスニング練習、会話練習

宿題：作文1 大学生生活

第3週 第2課 文法解釈、会話文と読解文の学習

第4週 第2課 リスニング練習、会話練習

宿題：作文2 週末の予定

第1回交流会 テーマ：大学生生活

第5週 第3課 文法解釈、会話文と読解文の学習

第6週 第3課 リスニング練習、会話練習

宿題：作文3 スポーツ

第7週 第1課～第3課 中間復習

第2回交流会 テーマ：スポーツ

第8週 第4課 文法解釈、会話文と読解文の学習

宿題：作文4 買い物

第9週 第4課 リスニング練習、会話練習

第10週 第5課 文法解釈、会話文と読解文の学習

宿題：作文5 動物・ペット

第11週 第5課 リスニング練習、会話練習

第3回交流会 テーマ：動物・ペット

第12週 第6課 文法解釈、会話文と読解文の学習

宿題：作文6 旅日記

第13週 第6課 リスニング練習、会話練習

第14週 総合復習

第4回交流会 プレゼンテーション

履修者：訪れたことのある観光地について中国語で紹介

留学生：中国の世界遺産を日本語で紹介

第15週 期末試験

後期

第1週 ガイダンス、第7課 文法解釈、会話文と読解文の学習

第2週 第7課 リスニング練習、会話練習

宿題：作文7 サークル活動

第3週 第8課 文法解釈、会話文と読解文の学習

第4週 第8課 リスニング練習、会話練習

宿題：日本の縁起物（数字・言葉）について調べる

第5回交流会 テーマ：サークル活動

第5週 第9課 文法解釈、会話文と読解文の学習

第6週 第9課 リスニング練習、会話練習

宿題：作文8 お気に入りの写真

第7週 第7課～第9課 中間復習

第6回交流会 テーマ：お気に入りの写真・縁起物

第8週 第10課 文法解釈、会話文と読解文の学習

第9週 第10課 リスニング練習、会話練習

第10週 第11課 文法解釈、会話文と読解文の学習

宿題：作文9 成人式

第11週 第11課 リスニング練習、会話練習

第7回交流会 テーマ：成人式・祭日

第12週 第12課 文法解釈、会話文と読解文の学習

第13週 第12課 リスニング練習、会話練習

第14週 総合復習

第8回交流会 プレゼンテーション

履修者：日本の縁起物について中国語で紹介

留学生：中国の祭日について日本語で紹介

第15週 期末試験

教科書：DVDで学ぶ中国文化『Chinese Adventure』（洪潔清著 2011 金星堂）

評価方法：期末試験50%と平常点50%により総合評価をする。平常点は授業態度

（出席率と交流会での発言意欲）と宿題（課外文法練習と作文）より評価する。

## 2.2 学習到達目標

中級クラスの中国語表現5と6は全学部、全学年向けの科目であり、週一回開講される。履修者の中には大学に入ってから中国語を学び始めた人もいれば、中国語を話す家庭で育てられた人もいる。レベルの差が大きいいため、授業設計にあたって、まず履修者の語学力によって3つのレベルに分けて、言語習得と文化理解の学習目標をそれぞれ設定した。

2.1の授業設計で示したレベル1に該当する学習者は全体の半数を超えている。彼らは1年次に週2コマ学習しただけで、日頃中国語を話す環境はなく、中国へ渡航したこともない。このレベルの学生には、言語習得においては、教科書の内容を完全に理解した上で、課題について簡単な中国語で聞いたり、質問に答えたりできようになること、また文化理解においては、教科書や留学生が紹介する文化事象を観察し、理解することを目標にもらった。

レベル2に該当する学習者は四分の一程度で、彼らは中国語を1～2年間履修し、さらに短期留学や短期滞在した経験がある。このレベルの学生には、言語習得においては、レベル1の目標に加えて、自らの考えや意志を中国語で表現できるようになること、文化理解においては、短期留学や短期滞在の経験を生かして、課題の文化事象について、日中間の共通点と相違点を伝えられるようになることを要求した。

レベル3に該当する学生には中国人2世が多い。彼らの多くは、普段両親と中国語で会話を交わしているため、日常会話は支障なく話せるが、課題の内容については思う通りに話せないことがある。このレベルの学生には、言語習得においては、課題について流暢な中国語で自分の気持ちや意見を留学生に伝えられること、文化理解においては、文化事象について日中間の共通点と相違点を見つけて、留学生と討論することができるようになることを求めた。

### 2.3 「言語・文化交流演習」との連携

本学の国際教育センターは、2011年度より協定校交換留学生や日本語・日本文化研修留学生を対象に「言語・文化交流演習」を開講している<sup>(1)</sup>。その実施要項によれば、この授業は日本人学生と交流し、共同学習を行うこと、自分の言語や文化あるいは言語教育に対する気づきを深めることを目的とする。履修生はそれぞれの外国語科目の授業に参加し、言語・文化のインフォーマントとして活動する。筆者は「言語・文化交流演習」の担当教員と連携を取り、2011年度（交流期間：2011年4月～2011年7月）は4人、2012年度（交流期間：2011年9月～2012年7月）は3人の中国人履修生を受け入れた。履修生は毎回交流活動が終了後、実習報告書を提出することが課されており、活動中の役割について気付いたことや反省点、および自分の言語あるいは言語教育について考えたことを書く。さらに、「言語・文化交流演習」の中間報告会と反省会に参加し、実習全体のレポートを提出することも義務付けられている。

### 2.4 交流内容と方法

交流会（1回45分間）は一学期に4回行う。毎回レベルによってグループ分けし、留学生1人に対して、履修者3～5人が一つのグループになって、決められた課題について作文発表や質疑応答による交流活動を行う。一つの実例として、2012年度前期に行われた1回目の交流会を表1に示して紹介したい。

表1 交流活動の実例

実施日	2012年5月11日（4週目/15週） 45分間
参加者	履修者 23名 留学生 6名
テーマ	大学生生活（教科書の第1課と対応）
活動のねらい	①初対面の時の挨拶、自己紹介をすることができる。 ②大学生生活についての作文を发表或し、口頭で紹介したりしたあと、互いに質問しあうことができる。 ③日中の大学生生活における共通点と相違点に気づき、話し合うことを通じて、相互理解を深めることができる。
事前準備	①履修者は教科書の第1課『大学校园』を学習した後、自分の大学生生活について100～150字程度の作文を書く。教員に添削された作文の音読練習などをして発表の準備をする。 ②留学生は彼ら自身の大学生生活について写真またはパワーポイントを使って紹介する準備を行う。
交流の流れ	①中国語でそれぞれ自己紹介を行う（5分ぐらい）。 ②作文発表の後、留学生は発表内容について質問をしたり、履修者はそれに答えたりして話し合う。 ③留学生は母校の大学生生活または現在の留學生生活について紹介する。履修者はその内容について質問をしたりして交流を進む。 ④日本語で自由歓談（5～10分間）。
自己評価	①留学生が話した内容について理解した割合を下記の五段階に分けて、履修者に自己評価をさせる。 1) よく理解できた（80%以上） 2) 大体理解できた（70%以上） 3) 半分ぐらい理解できた（50%前後） 4) あまり理解できなかった（40%以下） 5) ほとんど理解できなかった（20%以下） ②中国語で交流する際、最も障害になった点を記述させる ③交流会を通して反省した点を記述させる。 ④交流会を通して勉強になった点や感想などを記述させる。

第1課は中国の大学における入学時期や寮生活や余暇の生活などを紹介する内容であり、現役の大学生にとって非常に身近で、理解しやすいトピックである。交流活動は、学生たちが互いの大学生生活を紹介することを通して、学んだ表現を繰り返し使うことによって定着させること、また教科書にない新しい知識を獲得し、日中の大学生生活における共通点と相違点について理解を深めることを目的とする。では、1回目の交流活動の進行状況はどうだったのか、会話を妨げる問題点はどこにあったのか、表2に示す履修者の自己評価を分析しながら検討したい。また、こうした交流会を円滑に進行させるためにいかなる対策を取ったかについて述べたい。

表2 自己評価の集計結果

	レベル1	レベル2	レベル3
① 理解度	50%前後 6人 40%以下 2人 20%以下 4人	70%以上 3人 50%前後 3人	80%以上 4人 70%以上 1人
② 障害になった点	普段から耳にしているものではないので、聞き取るのが難しい／聞き取りが難しく、分からないことがあった／聞き取りが難しい。中国語で質問ができて、中国語の回答が理解できない／こちらの発音が伝わらない／発音の難しさ／スピードが速い／語彙が足りない／質問を中国語でどうすればいいか分からない	留学生の話すスピードが速くて追いつけない／スピードについていけず、聞き取れないことがある／語彙力が不足していて、相手の話を断片的にしか理解できない／したい質問を中国語でどのように言ったらよいか分からない	自分から単語が出てこない／言葉をうまくつなげて文にできないこと／単語が足りない
③ 反省点	用意した作文にピンインをふってなくて、自分で書いたけど読めない／中国語で質問したりできなかったの、次は事前に準備するなどして、質問できるようにする／中国語の勉強が足りない、もっと一生懸命中国語の学習に取り組んでいかなければならないと感じた／もっと積極的に中国語で話せばよかったと反省した／頭の中で日本語に翻訳しないで、中国語のまま直接理解できるようになりたい	せっかく交流しているのに、なかなか質問できなかった／作文を読み上げるだけになってしまった／相手の言ったことを日本語で考えてしまうので、中国語のまま理解できるようにしていきたい／表現力が足りない実感できた／ついつい甘えて所々日本語を使ってしまった	聞きとれるのにしゃべれないもどかしさを感じた／もっと語彙を増やす／まあまあ積極的に話してきた
④ 勉強になった点・感想	その場で発音を注意してくれた／分からない時すぐ聞きかえせるので、直接話せるのはいい機会だ／自分の中国語が相手に伝わると少し成長できていることが嬉しい／自分でCDを聴いて、中国語を聴くことになれることが大切だと思えた／中国語で会話することを現実的に体験することができた／中国の文化について触れることができたとともに、中国語の学習という点においても、実際にネイティブの人と話すことができて大変参考になった	あまりにも話せすぎて、逆にやる気につながる／先生以外の中国語を実際に聞くことができた／教科書でなく、中国でよく使われる言葉などをネイティブの発音で聴くことができる／勉強したことを実際に使うことで、具体的にどのような場面で使うかなどが体得できた／中国語頑張りたい	もっと勉強しようという意欲がわいた／たくさん新しい言葉を習った／普段は家でしか話さないの、いい練習の機会になった／いい経験だ

上記の自己評価①の集計結果から分かるように、レベル1とレベル2の学生は中国語でネイティブと会話する際にまずリスニングという大きな壁にぶつかっている。レベル1においては、半数以上の学生がネイティブの話が聞き取れず、スムーズに交流することができない状態となっている。レベル2においても、留学生の話すスピードについていけず、一部の内容しか理解できない人が多く見られる。このように、普段教室だけで週90分しか中国語に触れない環境にいる学習者に、いかにして聴く力を向上させるかは一つの大きな課題となっている。また、自己評価②の内容に反映されるように、習った表現を実際の現場でどのように使用するかといった表現力の問題や、単語が足りないといった語彙力の問題がどのレベルにおいても存在している。さらに、自己評価③の反省点にあるように、事

前準備をしっかりとせず、自分の語学力に自信を持ってないことから、緊張や不安を抱え、円滑な交流を妨げているケースも多く見られる。

これらの問題を改善させるために、筆者はまず徹底した事前準備をするように指導した。具体的には、①交流会の前の週に、新たに事前準備指導会（1回45分間）の時間<sup>(2)</sup>を設けて、「言語・文化交流演習」を履修する留学生に参加してもらい、質問文の作成や、音読練習・発音矯正などの指導を行ってもらった。②語彙力を増やすために、課題に関する語彙を予想してまとめておき、事前に学習させて心理的負担を少なくした。③他人の発表を聞いて、即興で質問するのは難易度が高いため、図1のように、事前準備指導会で「自己評価シート」に課題に関する質問を書き込んでもらい、交流の際に指示に従って、自己評価をしてもらうことを試みた。

図1 自己評価シート

一 次の質問をしてから自己評価をしましょう。

(1回だけで話を通じた場合は3点、二回以上は2点、三回以上または日本語を使った場合は1点、質問しなかった場合は0点。)

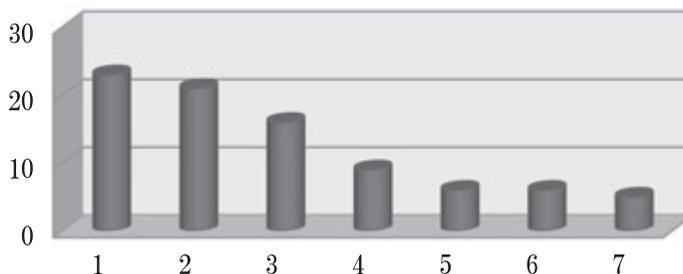
(1回目)	質問	回答
1 你喜欢猫吗?	③ 2 1 0	③ 2 1 0
2 你养过宠物吗?	③ 2 1 0	③ 2 1 0
3 你喜欢熊猫吗?	3 2 1 ①	3 2 1 0
4 在中国,你去过动物园吗?	③ 2 1 0	3 ② 1 0
5 你看过熊猫吗?	③ 2 1 0	③ 2 1 0
6 从你家到学校大概要多少时间?	3 ② 1 0	3 ② 1 0
7 你常常去那儿买东西?	3 ② 1 0	③ 2 1 0
8 你去过南京路步行街吗?	③ 2 1 0	3 ② 1 0
9 你喜欢什么体育活动?	③ 2 1 0	③ 2 1 0
10 下课以后,你经常做什么?	③ 2 1 0	③ 2 1 0

「自己評価シート」を使用することにより、交流の際何を聞けばいいか、どのように話せばいいかすべて準備しているため、失敗を恐れる人も、不安を抱える人も自信を持って参加できるようになった。また、用意した内容についてどれくらい質問したのか、どの程度聞き取れたのかを「自己評価シート」に記入して提出しなければならないため、学生たちはみんな真剣に取り組んでいた。このような方法はある程度強制的ではあるが、円滑に会話を進めることには大きな効果があったと見られる。学生たちもたくさん話ができて効果的だったと評価している。

### 3 学習効果

こうした交流活動は語学学習にいかなる効果を与えているのか、学習者はこのような授業づくりをどう受け止めているのか、2012年前期の期末に、履修者24人を対象にアンケート調査を行った。その結果、75%の履修者が「とてもためになった」、21%の履修者が「少しためになった」と回答した。この結果から、交流型授業づくりが学習者に大いに評価されていることが窺える。また、交流会を通して「勉強になったこと」について、学習者の自己評価に基づいて分類した項目を選択してもらったところ、下記図2に示す結果が得られた。「勉強する意欲が湧いたこと」が一番選ばれており、こうした交流型授業づくりが学習意欲向上に大きく役立っていることを示している。具体的には次の3点にまとめることができる。

図2 交流会で勉強になったこと



- 1 力不足を感じてさらに勉強する意欲が湧いた
- 2 留学生と直接会話することができてよかった
- 3 授業以外の知識も得られた
- 4 作文を書くことにより、文章力を向上させた
- 5 中国語で表現する力がついた
- 6 語彙が増えた
- 7 リスニング力が向上した

1) 語学の実践練習に効果的である。

中国人2世を除き、学習者の多くは日頃中国人と接触する機会がないため、習った中国語を実際にどの場面で、どのように使うか実践した経験がない。交流会で、中国人留学生を相手に実践の経験を積むことにより、教科書で習った言語知識を使いこなして、定着させることができた。また、さまざまな会話の中から教科書だけでは得られない新しい知識も身につけられ、中国文化や社会事情に対する理解を深められただけでなく、中国への関心もさらに強めることができた。

2) 学習者に話す自信をつけることができた。

交流の際、自分の語学力に自信を持たず、話したいことをどう表現するか躊躇する学生が多く見られる。しかし、あまり自信のなかった文であっても相手に通じれば、喜びと達成感があり、それが成功体験として蓄積され、学習者にとっては自信となる。それはまた、

学習者に積極的に話すことの大切さを再認識させ、チャレンジする意欲を向上させることにも繋がるであろう。

### 3) 弱点克服に向けて頑張る意欲が湧いた。

交流会に参加した学生のアンケートには「発音を通じなかった」、「習った単語なのに、音声として聞くと聞き取れない」、「語彙力が足りなくて、相手の話が理解できない」といった感想が多く見られる。このように、交流活動を通じ、多くの学習者は自分の発音や語彙、リスニング力と表現力における弱点に気づくことができたようである。中には、「発音を注意されて、自分の発音を意識するようになった」、「語彙力不足を感じた。単語の勉強にもなるので、今回は80%以上聞き取れるように頑張る」などといった積極的な姿勢も見られ、交流会は学習者に弱点克服に向けて頑張る意欲を向上させる効果があったと言えるだろう。

## 4 今後の課題

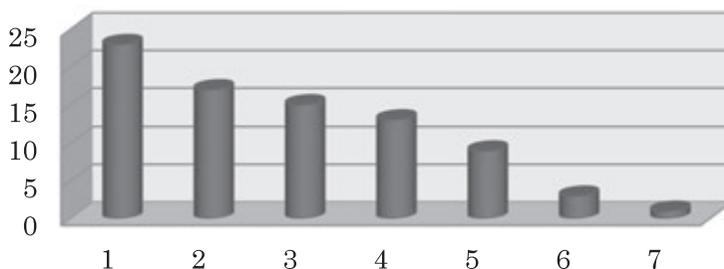
上述のように、交流型授業づくりは語学の実践練習や学習意欲の向上において大きな効果が得られた一方、下記のような課題も残されている。

### 1) 交流活動を円滑に進行させる工夫

下記図3に示す「交流の際最も障害になったこと」というアンケートの調査結果から、「語彙力の低さ」と「表現力の弱さ」が交流活動を円滑に進行させる際の最も大きな妨げとなっていることが分かった。これを改善させるためには、前述した周到的な事前準備指導のほかに、学習者に楽しく語彙を学ばせる方法を工夫する必要があると思われる。今後交流会で語彙力をテストするゲームなどを行うことにより、語彙力の向上に役立つ方法を探ってみたい。

一方、交流会では決められた課題についてできるだけ中国語で話し合うことを求めている。この要求は語学力がまだそれほど高くない学習者にとっては大きなプレッシャーとなっている。いかにして学習者の緊張感と不安を払拭させるかが課題である。今後は、これまで授業の最後に行っていた日本語による対話を交流会の最初に行い、学生達をリラックスさせ、発言しやすいムードを作るようにしたい。

図3 交流の際最も障害になったこと



- 1 語彙が少なすぎると実感する
- 2 文法が分からなくて、うまく表現できない
- 3 リスニング力が弱くて聞きとれない
- 4 話したいが、自信がなくて話せない
- 5 発音を通じない時がある
- 6 中国の事情が分からなくて質問ができない
- 7 積極的に交流に参加する意欲がない

## 2) 到達目標を測る基準と方法の作成

2.1授業設計で示したレベル分けの到達目標について、どの程度まで達成できたかを測る基準と方法を明確にする必要があると思われる。例えば、初回の授業、前期期末と後期期末の3回、個別インタビューやプレゼンテーションなどを行い、学習者の到達レベルを確認しながら、こうした交流型学習が外国語によるコミュニケーション能力の向上にどの程度役立ってたかを検討していきたい。

## 3) 留学生への指導

留学生の多くは、初めてこのような交流活動に参加するため、日本人学習者の中国語レベルを全く把握していない。交流の際、学習者の学んだ言い回しと違う表現を使う例が多く見られる。これも会話を妨げるもう一つの原因と見られる。例えば、教科書に出てきた“你是大学几年級学生？（大学何年生ですか）”や“你喜欢什么？（何が好きですか？）”という表現は知っているが、留学生に“你上大几？”“你有什么爱好？”と言われて、何を聞かれているのかわからず戸惑っているという場面が散見された。今後、学習者が学ぶ文法や語彙を細かく分類して事前に留学生に提示したり、日本人を相手にした時の表現方法や話すスピードなどの指導を行ったりして、改善に努めたい。

以上のように、留学生を招く交流型授業が中国語によるコミュニケーション能力をどの程度向上させたかについては今後さらなる実践と調査を行う必要があるが、学習者の学習意欲を向上させたという点において大きな効果が得られたことから、こうした取り組みは中国語教育において意義のある教育実践であり、今後普及させていくべきではないかと考える。

## 注

- (1) 千葉大学国際教育センター西住奏子先生が担当教員とする「言語・文化交流演習」が2011年4月より開講している。「言語・文化交流演習」は前期のみ開講となっているため、後期にはボランティアとして参加する。「言語・文化交流演習」の履修生だけでは需要を満たさないため、日本人と交流を望む本学留学中の中国人ボランティアを募集して対応している。これまでに十数名の中国人ボランティアが交流活動に参加した。
- (2) 「言語・文化交流演習」の履修生は最低7回の実習に参加する必要があるため、4回の交流会以外に、さらに3回の事前準備指導会に参加してもらうことにした。

謝辞：本原稿を作成するにあたり、言語教育センターの周飛帆先生と植屋高史先生に多大な助言をいただき、心から謝意を表したい。